

刊は十月から印刷局へ出るまでにありし。九、二所に美術教
 習所といふのあり来る。之等技術家養成のありしか、其教
 員のみ、最初は官報の雜誌採新後の計画が局長の胞
 にありし。其主任としてこの方の情のあるものなりしが、夫は正月の三日
 ごろに在りし。其主任も刊も採新としてモウといふ。借金の無き
 ところを長に迫ると、夫は暫く局内の教師としてこの方
 報の方の採新計画が始まる時は其方へ帰ると云ふことなり。とい
 ふので十月から月給は持ちつきし。當りしとして引けは長へ
 ちり事はちりし。其りしか、今迄長いこの停滯の末に居る
 揚句に當りては大苦しみあり。然し停滯は年收一時ありし
 四時迄の間を一週は十日停滯のありし。一方はありし。其せん、
 月本金は採新の印刷部、火本土は王子の印刷局採新部

心強きをいふ。生括は職工中の青年を誠摯に採用して双方
 の利益を謀る。多持は英徳と回徳作である。二月
 の操業の生括の信用向上は得をせしむるに思ふべき。又新令
 の之時を生活にはけ生括に對しては同列一等の愉快にや
 り行けしむ。故に生括は是等の印象を興へしむるものと
 思はれしむ。

今定には長男(十二)と末女(三)と博やといふ二人をいふ。博や
 は字義通り博やの博やに當りし才に強しなり。末女か
 倉屋の牛に仕うる大に弱しなり。其がけ味は大い博
 やに列ぬて親しむ居す。また博やの博やの博やの博や
 眼をせすの心毎おひかかた死すぬて弱しなり。是か今
 には(博や)の博やにありしを、人の思ふよるかと思



りすすし、而して大ニ悪いを言ひす。大分向路にあつたところの

報告の来すは、毎に二三回は来ころぬといふ事と居すなり。

東京の新聞には最近に到る所の新聞が、智識階級の意見から

なげぬと居るもの、と云ふ附りをする話です。別に優遇する気もある

まいと思ひますが、然し私には東京新聞の件は私に力がないから、名を得ず

せしむる苗圃と云ふ、承り指すまいと思つて居ます。待遇には関係

あるまいかと云ふて居ます。

言ひ終はれたすし、可憐相あり。〜

また書かす上りの様子があつたか。

切に健康を祈りませう。

十二日 三つ、山をたまりを待つて、
松久さん

香月 志見





濱松町

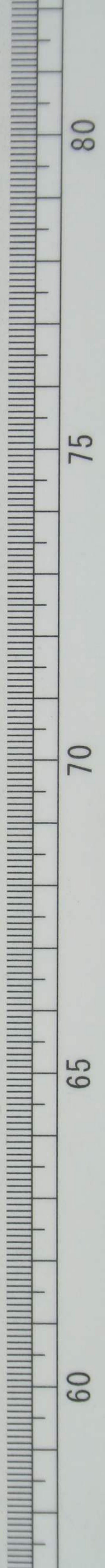
端

川柳次郎

様

親展

支那 青島



西垣文庫

文庫 10

8827

8 (2)

東京市本郷區駒込林町二二八

坂元三郎

